



## ふるさとの魅力を写真に

ふるさと比和デジタルフォトコンテスト・1/16

No.6

比和自治会が「第10回ふるさと比和デジタルフォトコンテスト」を開催し、町内から24点の応募がありました。このコンテストは、地域の人に「比和の魅力を再発見してもらいたい」との思いから開催され、「ふるさと比和」をテーマに作品が募集されました。

作品には、吾妻山の紅葉やヒゴタイの花など、町内の豊かな自然が写真に収められました。

写真を応募し、自治会賞を受賞した萩美枝さんは「比和の子どもたちに、写真を通じて、もっと地域の良さを知ってもらいたい」と話しました。

応募された作品は、3月中旬まで比和自治振興センターに展示されます。



▲比和自治振興センターで展示されている作品

## 地域の取り組みを受け継ぐ

愛鳥活動でカレンダーを配布・1/20

No.8

帝釈自治振興区と地元の「帝釈四つ葉子ども会」が、愛鳥カレンダーを作製し、帝釈地域の皆さんに配布しました。

この活動は、廃校となった帝釈小学校が長年取り組んできた「愛鳥活動」を、地元の子どもたちに受け継いでほしいとの思いから、毎年企画されています。

令和4年愛鳥カレンダーの作製や野鳥への給餌（餌やり）などが行われました。カレンダー作製では、子どもたちが帝釈自治振興センターに集まり、オオルリなどの野鳥のイラストを色鉛筆で丁寧に描いていました。

参加者は「毎年、愛鳥カレンダーを楽しみにしている人がいるので、今回も気合いを入れて描きました」と話しました。



▲野鳥のイラストを描く参加者

## 地域のシンボルに光を

夜燈にLED照明を設置・12/22

No.5

高地域のシンボルである「夜燈」にLED照明が設置されました。

この夜燈は、高郷土史研究会が平成3（1991）年に、昔の旅人の道しるべを再現するため、夜燈交差点近くに建てたもので、高地域では親しみを込めて「夜燈さん」と呼ばれています。

今回、地域に明るい話題をつくろうと、高自治振興区丸田信昭さんの発案により、LED照明が設置され、温かな光が地域を照らしました。

地域住民は「日常に溶け込み、普段意識して見ていなかったが、明かりがともったことで、改めて地域の歴史を感じることができた」と話しました。



▲照明がともされた夜燈

## 鬼は外、福は内

西城保育所 節分行事・2/3

No.7

西城保育所で節分行事が行われ、園児35人が豆まきを行いました。

園児は、この日のために鬼のお面や、豆の代わりに新聞紙を丸めて作った球を作成。節分に向けて準備を進めてきました。

節分行事が始まると児童は、童謡「まめまき」を歌ったり、曲に合わせて踊ったりしてました。その後、自分の心の中にある「泣き虫鬼」や「片付けしない鬼」を退治するため、豆まきをしていると、突然真っ赤な鬼が登場。鬼の姿に泣いてしまう園児もいましたが、協力して球を投げ、鬼を退治しました。

園児は「思いつき球をぶつけて、鬼を退治した」とうれしそうに話し、季節の行事を楽しんでいました。



▲協力して鬼を退治する園児

## 先進的な技術開発

インフラメンテナンス大賞の受賞を報告・2/16

No.2

ヤマモトロックマシニング株式会社が、国の「インフラメンテナンス大賞」で優秀賞を受賞し、木山耕三市長へ報告しました。

この賞は、日本のメンテナンス産業の活性化を図ることを目的に、国内の公共施設の整備に係る優れた取り組みや技術開発を表彰するものです。

今回同社は、高速道路のトンネル照明清掃を、従来の25倍の速度で行うことができる製品を開発しました。これにより、トンネルのメンテナンスに係る時間や費用の大幅な削減が期待されます。

同社の山本将登社長は「今後も日本の産業を支える存在として、製品開発に取り組みたい」と話しました。



▲左から山本社長、木山市長、同社の吉村邦雄主任

## 全国で高い評価を獲得

「ディスカバー農山漁村の宝」の受賞を報告・2/18

No.4

株式会社敷信村農吉が、農林水産省「ディスカバー農山漁村の宝」の特別賞「農と地域づくり賞」を受賞し、木山市長へ報告しました。これは農林水産省および内閣官房が、農山漁村の特性を生かした地域の活性化や、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信しているものです。今回は、全国651件の応募の中から38件が選定され、同社はこの中からさらに優良と認められる16件に選ばれました。

今回の受賞は、里山の自然を生かした保育所の運営や地域の特性を生かしながら農家所得の向上を図る取り組みなどが高く評価されました。

同社の中岡和己社長は「地域がもっと元気になるよう地元へ根付いた活動をしていきたい」と話しました。



▲左から木山市長、中岡社長、同社の檀上理恵室長

## 民間交流による友好写真展

庄原市・綿陽市合同写真展・2/2～13

No.1

「庄原市・綿陽市合同写真展」が、ショッピングセンタージョイフルで開催され、50点の作品が展示されました。

この写真展は、市が経済技術友好協力協定を結ぶ中国四川省綿陽市と、民間で交流活動を行っている庄原綿陽友好推進協議会が、本市と綿陽市の文化や風土を知ってもらうため、お互いの都市で写真展を開催する「合同写真展」という形で実施されました。

同協議会の宮崎良治会長は「これまでの交流の歩みを、写真展を通じて知ってほしい」と話しました。

写真展は、3月18日から市役所本庁舎市民ホールでも開催する予定です。



▲写真展を訪れた参加者

## ことしも高評価！庄原の米

各種米コンクールで庄原産米が入賞

No.3

「第23回米・食味分析鑑定コンクール国際大会都道府県代表お米選手権」が静岡県で開催され、「西城町美味しい米づくり研究会」の郷力利行さんが出品した「あきさかり」が特別優秀賞を受賞しました。

また、大阪府で開催された「第11回大阪府民のいっちゃんうまい米コンテスト」で「協同組合庄原里山の夢ファーム（山内町）」の石田哲久さんが出品した「あきさかり」が優良賞を受賞しました。

毎年、庄原産の米は、全国の米コンクールで高い評価を受けています。これにより本市が高品質でおいしい米の産地であることが全国に発信されており、さらなるブランド力強化につながることを期待されます。



▲受賞された郷力さん

▲受賞された石田さん